

仕事と介護の両立支援 事業のご案内

～広げよう暮らしやすい
社会の輪を～



りぷらす

Link & Rehabilitation Plus

一般社団法人りぷらす

石巻から、東北から。 「介護」で働けなくなる人をゼロへ。

◆ ひとりでは抱えきれないことも、多勢でなら支えあえる

支えがない、助けがない状態で介護をしなくてはならない。「介護」、そして「介護離職の危機」は突然訪れます。社員が助けを得られず職を失い、収入を失い、人との関係から孤立する。その先にどのような未来があるのでしょうか。

2011年3月の大震災以降、人の支えがなければひとりで生きていくのは困難なこと、反面、複数の手助けが些細であっても大きな力になることも改めて知りました。

石巻の現在の高齢化率は、日本の10年後の高齢化率と一致します。石巻から、東北から「介護離職」をゼロにすることができれば、日本の10年後の「介護離職」はゼロにできるはずです。

◆ 地域社会の価値を高めることが、企業価値を高める

企業は、家族よりも大きな単位で人を支えることができる組織です。「利益を生み出す」ことが企業の本来の目的であるならば、利益を生むサイクルを構成する社員が安心して生活を送れるように、安定した収入を得られる場を与えるのは企業の義務です。

企業が社員を支える正しいプロセスを実施すれば、社員は地域社会の一員として、人を支える側へと成長していくこともできるでしょう。

現在日本では、人口の10人に1人が「介護」の当事者となっており、介護者の5割強が介護開始から1年以内に離職します（明治安田生活福祉研究所2014年9月）。このような背景の元、企業としていち早く社員の仕事と介護が両立できる環境を整えることは、介護離職を防ぐだけでなく、企業のイメージアップ、新たな人事戦略から成長戦略へと繋がるのです。

介護離職をゼロにするには、人事制度、福利厚生の見直しが必要となります。見直すには、一企業としての問題だけでなく、社員をとりまく様々な課題、地域社会との関わりを検証する必要があります。

◆ 介護離職ゼロの社会を共に創る

「りぷらす」は石巻で、高齢者が要介護となっても地域社会と繋がり、健康に暮らすため医療・介護専門職を中心としたスタッフが一丸となりサービスを提供しています。

企業に対しては、介護離職のリスク調査・分析、制度策定に向けた情報提供を実施して参ります。「介護に対する正しい知識」「介護サービスの選び方」「介護サービスを使いこなすポイント」、そして「介護初動期における緊急相談」を行うことで、社員の皆様のいざという時に備えることができます。

社員が安心して暮らしていけるように。日本の10年後の未来のために。

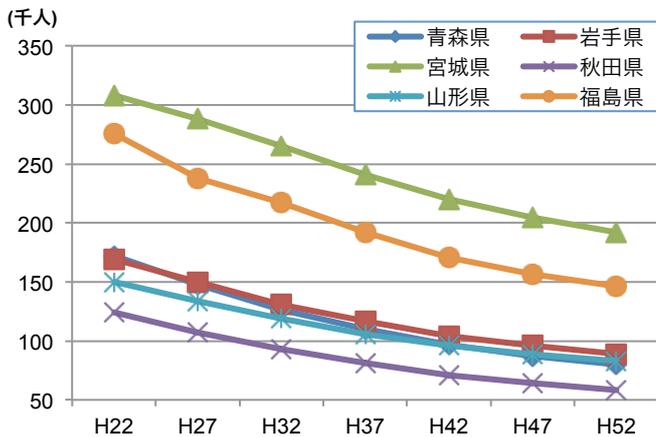
その一步を「りぷらす」と共に踏み出しましょう！

◆ 介護をしながら働く社員が増える時代に

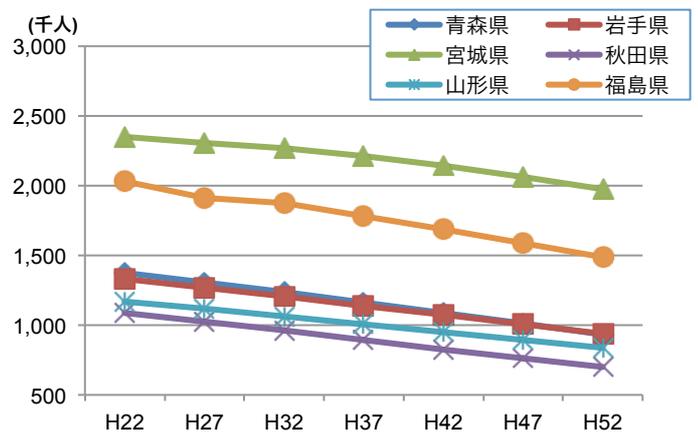
現在日本では、人口の10人に1人が「介護」に関係する当事者となっています。介護を必要としている人は600万人超、15歳以上で普段家族を介護している人は680万人を超え、大きな社会問題へと発展しています。

少子高齢化の進む日本では、年々労働人口が減少するとともに、労働人口そのものも高齢化が進んでいます。

東北の年少者人口の推移



東北の人口全体の推移



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

◆ 介護離職は企業にとって経営リスクに

「介護離職」は、長い時間をかけて育成した人材の損失であるため、現在多くの企業が社員の介護支援を人材戦略の一環として注目しています。

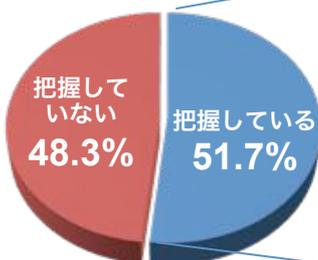
下グラフは、「介護問題を抱えている社員を把握しているか」、また「把握している事業所における把握方法」を記載したものです。

「介護問題を抱えている社員を把握している」事業所は全体の51.7%に過ぎず、半数近くは把握できていません。

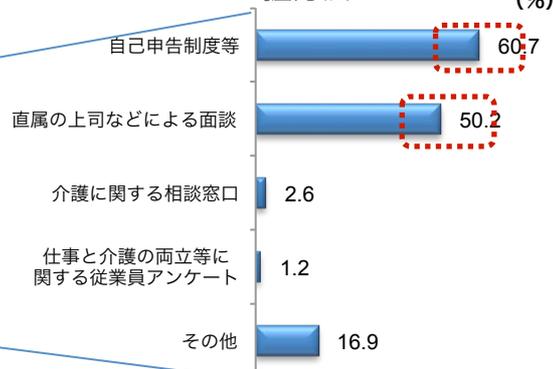
また把握をしても、把握方法は社員からの自己申告による場合が大多数となります。

介護問題を抱えている社員把握の有無と把握方法別事業所割合

Q1. 介護問題を抱えている社員を把握しているか



Q2. 把握している事業所における把握方法



企業が社員の介護問題を把握する方法は、社員からの自己申告等による場合が大半を占めます。

企業が把握するときには、すでに介護が始まっている・介護離職のリスクが間近に迫っているかもしれません。

社員からの突然の相談に、企業も対応できない場合が多くあります。

出典：厚生労働省「平成25年度雇用均等基本調査（事業所調査）」

介護離職のリスクとは？

◆ 介護離職に陥りやすいパターンと、介護離職のリスクとは？

介護が必要となる原因（要介護原因）をご存知ですか？

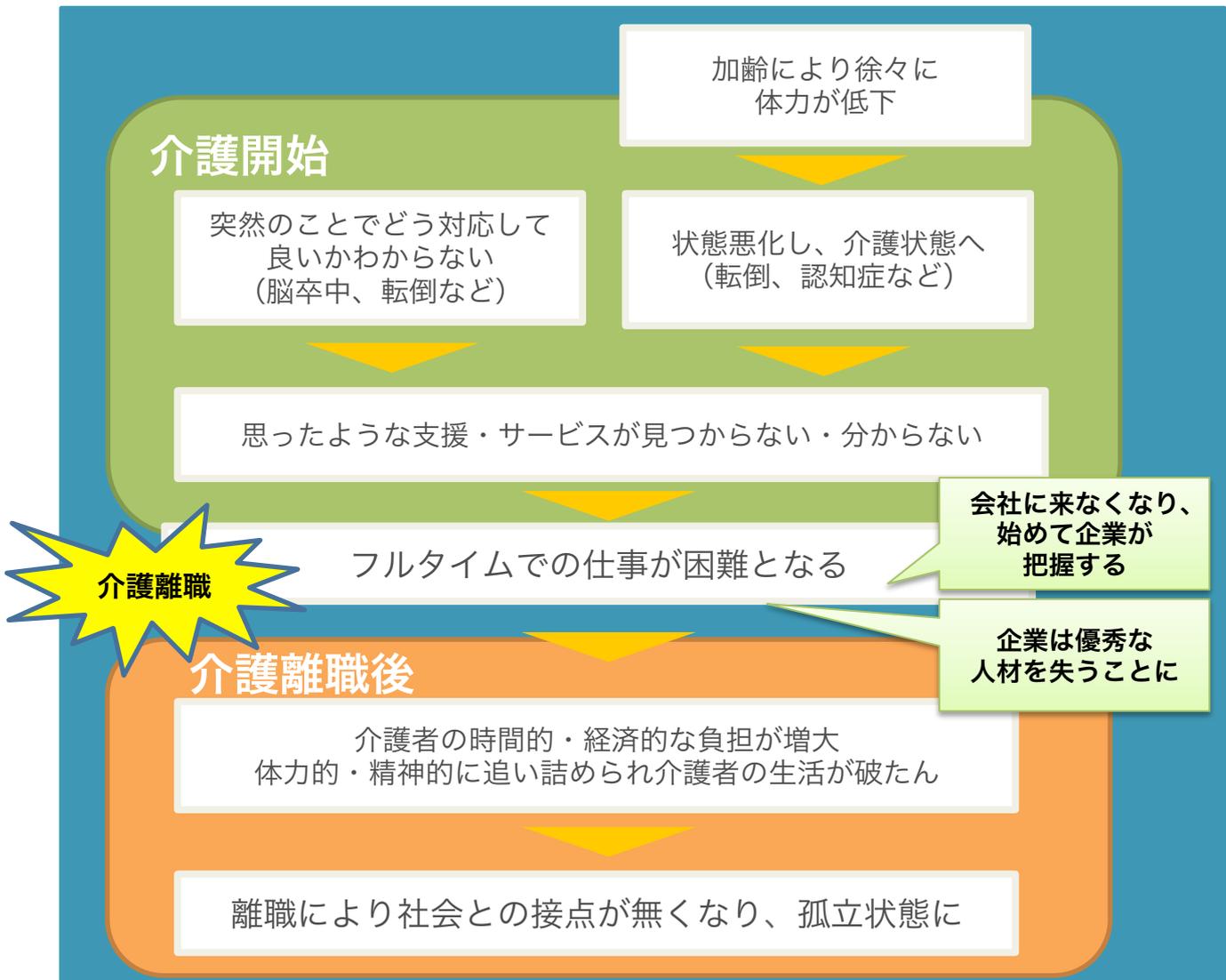
要介護原因の第1位は脳卒中、第2位は認知症です。いずれもある日を境に、それまで意識していなかった「介護」が始まります。育児と違って、「いつから」「どのくらいの間」続くのかわかりません。

誰もが迎える可能性のある家族の介護。企業ではどのような準備をしていますか？

介護をしながら仕事を続けるためにはそれ相応の備えが必要です。備えができず、離職に追い込まれてしまうケースを「介護離職」と言います。この「介護離職」は、現在一定規模になってきた事で、注目を集めています。介護離職者は、現在年間10万人に上るとされ、一般的に40-50代の特に兄弟・姉妹のいない方に多いとされています。

介護の始まりから、どのように「介護離職」に追い込まれてしまうのでしょうか。

陥りやすい「介護離職」のパターン



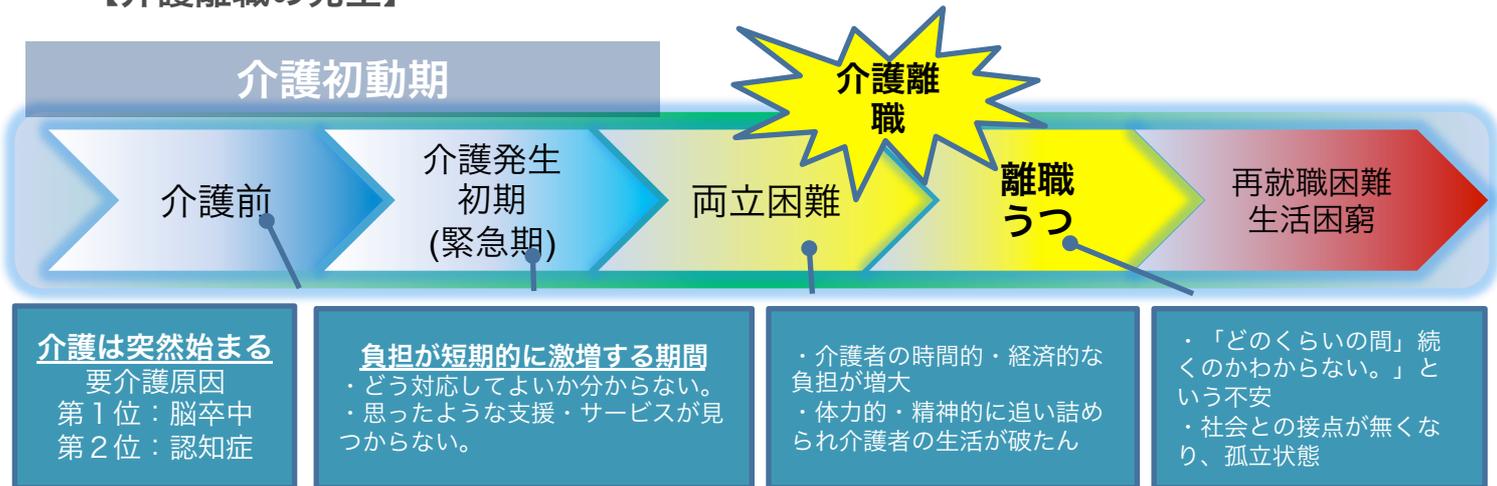
**介護離職は、介護者本人だけでなく、
企業にとっても大きな損失に繋がります。**

どうやって、仕事と介護を両立するか？ ～介護離職を防ぐタイミング～

◆ 介護離職を防ぐタイミングとは？

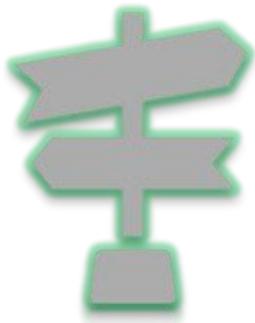
仕事と介護を両立するために、介護離職に陥りやすいパターンを防止するタイミングは、どこにあるのでしょうか？

【介護離職の発生】



介護離職を防ぐ、すなわち、このような悪い流れを断ち切るためには、「介護前」の準備と、介護発生初期の「負担が短期的に激増する期間」での判断が最も重要になります。そのためには、「限りある時間の中で多くの情報を集め、最適なサービスを選択する事」が必要になります。

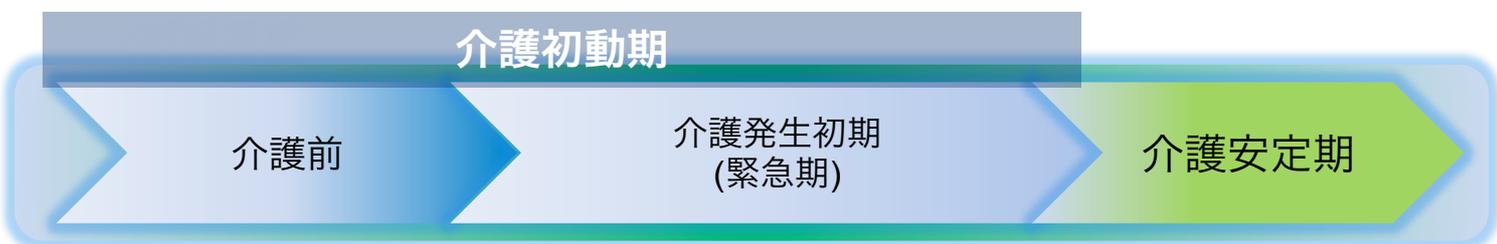
◆ 初動が大切！



冒頭にてご説明した通り、介護による転職者、介護専念者の5割強が、介護開始から1年以内に離職しています。

このことから分かるように、「介護前」と「介護発生初期」を合わせた、「介護初動期」こそが、仕事と介護を両立できるかどうかの重要なポイントとなります。この重要な時期をどう乗り切るかで、「介護離職」へ道進んでしまうかもしれない分岐点で、「介護安定期」の方向へ歩みを進めます。

【介護安定期を実現し、仕事と介護を両立する】



「介護初動期」では、以下の様なポイントが重要になります。

- ・ 個人として介護への準備ができているか？
- ・ 地域の介護サービスに精通している専門家に相談できるか？
- ・ 仕事と介護が両立できる「制度」・「組織体制」・「組織風土」があるか？

備えと、正しい初動対応で、仕事と介護の両立へ！

仕事と介護を両立するサービス ～必要なサービスを必要な時に～

◆ 仕事と介護を両立する包括的なサービス

仕事と介護を両立するためには、環境を整備する必要があります。「りぷらす」は、法人を対象としたサービスで企業としての土台を構築し、社員とその両親を対象としたサービスで、緊急時のリクエストに応じ、仕事と介護の両立を支えます。

●法人を対象としたサービス

サービス名称	目的	内容
自社リスク診断	自社社員の介護離職リスクを把握する	社員の年齢・両親との同居有無・兄弟有無をアンケートし、5年後・10年後の介護離職リスクを簡易的に診断する
準備セミナー	①介護を自分ごととして理解する ②人材が今後さらに不足するマクロ環境を理解する ③お互いに助けあう組織風土を想像する	① シミュレーションの実施 ② マクロ環境の説明実施 ③組織としての文化をつくるために管理職（40代イメージ）には、マクロ環境までしっかり理解してもらう 一般社員には、「自分事」として理解してもらうことを主眼にする
制度設計 コンサルティング	仕事と介護を両立するための各種制度設計を行います	①仕事と介護を両立していくための、各種制度をご提案します ②制度を実際に利用してもらうための風土づくりも一緒に行っていきます

●社員とその両親を対象としたサービス

	基本	安心	サービス名	目的	内容
介護前	○	○	予防セミナー	効果的な体の動かし方を学び、本人と両親の介護を予防する	・健康体操の実施 ・健康体操ハンドブックのプレゼント ・介護の要因とその対策を学ぶ
介護発生初期		○	準備セミナー	介護を自分事として理解する	両親が介護が必要になったと仮定し、介護と仕事の両立をシミュレーションする
介護安定期	○	○	緊急相談	介護をサポートするサービスを使いこなす	地域で実際に使用できる介護リソース情報を提供し、もっとも効果的に使える方法をアドバイスする
		○	個別相談	早期問題発見を行い、早期対応につなげる	介護に関する日常の不安・不満などを相談する

「りぷらす」は、介護離職 **ゼロ** を目指します！

なぜ、「りぷらす」が担うのか？

◆ 理学・作業療法士による専門的なサービス

りぷらすは、理学・作業療法士の専門的な知識をもとに、リハビリ特化型デイサービスを提供してきました。介護当事者の夢に寄り添い、地域に密着したサービス展開を通じ、多くの方から喜びの声が届いております。また、メディアでも多数ご紹介を頂きました。

主なメディア掲載

NHKあさイチ「介護からの卒業」 河北新報「住民主体で介護予防」 など

◆ りぷらすの目指す地域社会

誰もが迎える可能性のある介護について、当事者だけでなく、その家族に対してもサポートが必要となっています。介護離職ゼロの社会を目指すには、地域社会と企業の一体的な取り組みが不可欠です。介護当事者が、そしてその家族が健康的に暮らし続けることができる地域、社会を目指して共に協力をしていきましょう。



子供から高齢者まで病気や障がいの有無にかかわらず
地域で健康的に生活し続ける事ができる社会を創造する

一般社団法人りぷらす

Building health,
Making health,
Creating a community.

仕事と介護の両立支援事業担当：橋本・千葉
〒986-0101 石巻市相野谷字今泉前29-3

電話 0225-98-8957

FAX 0225-98-8958

メール ri.link.plus@gmail.com

ホームページ <http://rilink.ismine.net/index.html>

facebook <https://www.facebook.com/ri.link.plus>

受付時間:月～土

8:30 ～ 17:30 (土曜日のみ12:30まで)